



白糠町は農業に  
すごく力を入れていると  
感じました。

田中 詠悟

1 大豆は葉やさやが黄色くなって、完全に葉が落ちた後に収穫します。 2 収穫した大豆は乾燥させた後、脱穀機を使って茎やさやを取り除きます。 3 脱穀した後の大豆。大豆は温度管理が重要で、高温にならないように貯蔵します。

——初めから白糠町で研修をしようとは思わなかったのでしょうか。

私は、派遣のアルバイトで農業と関わるようになったのですが、その派遣先の一つが研修を受けた南幌町の農家でした。そこは無農薬で有機栽培をしており、手間暇がかかって『体

良いものを作る』という方針で米と大豆を作っていました。私はその考えにいたく共感し、その農家さんと同じような農家になりたいと思いました。それでアルバイトを辞めて、その農家さんのもとで本格的に農業を学ぶことにしました。農地の問題はありました。農地がなかったので、その方のもとで農業を学ぶことが自分にとって重要なことだったので。

——白糠町のことはどのようにして知ったのでしょうか。

毎年行われている『農業フェア』で白糠町のことを知り、農地の問題がありました。農地がなかったので、そこに参加していたほすすべての町に相談したと思います。ですが「まずは、ここで研修を受けてください」と、それでは受け入れは難しいということだったので、どの町村からも断られました。そうした中、白糠町では先ほど話した通り、受け入れてくれるということだったので、白糠町で農業をすることにしました。

農業をするため、本町に移住してきた田中詠悟さん(34歳)。田中さんは、昨年4月から上座路地域で大豆を栽培しています。

——白糠町で農業をすることにしたのは、どうしてでしょうか。

まずは、白糠町の「新規就農支援制度」がとても手厚いということが大きな理由の一つです。農業フェアやパンフレットなどで、白糠町の農業支援は『全国トップクラス』ということを知っています。制度の内容を知ると本当にその通りだなと

思いました。中でも農業用施設の取得費や農業用機械の購入費、農地の取得費などに半額の助成があるというのには驚きです。ここまで助成してくれる支援制度というのは、他の市町村にはないと思います。白糠町は農業にすごく力を入れていると感じました。もう一つの理由は、農地があるということです。私は南幌町で農家になるための研修を受けていたのですが、「農地をどうするか」という問題はそこからずっと考えていました。と言いますのも、南



プロフィール  
田中詠悟（たなか・えいご）  
1989年1月5日、札幌市生まれ。札幌創成高等学校卒業後、EPSギタークラフトアカデミー仙台校に入校。卒業後はお菓子会社へ就職。退職後、農家になるため南幌町で研修。2022年4月に白糠町へ移住し、農家となる。趣味は音楽を聴くこと。